

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「No Limit! とことん福泉!」のスローガンの下、
つながりや体験的な学びを重視し、素敵な社会人を育成し、地域に貢献できる学校をめざす。

- 1) 「夢の実現に向けてチャレンジし、努力を惜しまない生徒」を育成する。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人に感謝・協力することができる生徒」を育成する。
- 3) 「自分の能力や興味を見つけ出し、学校生活に懸命に取り組む生徒」を育成する。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
 - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
 - (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
 - ・これまで実践してきた授業の内容や方法等を再点検しながら、「オープンクラス」による授業見学及び研究協議を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。
- ※・授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3以上をめざす。R6年度については3.3以上を維持。
(R1 ; 3.15、R2 ; 3.22、R3 ; 3.25)
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：肯定率80%以上をめざす。R6年度については80%を維持。
(R1 ; 79%、R2 ; 77%、R3 ; 78%)

2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な探究の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
 - ・上級学校や企業など外部と連携した進路学習の機会（インターンシップや分野別進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
 - ・入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育をつくりあげる。
- (2) 各種検定、就職指導、進学講習等、生徒の資質・能力を伸ばし、進路実現に向けた取組みをさらに進める。
 - ※・年度末進路決定率100%（R1 ; 95%、R2 ; 95.3%、R3 ; 94.5%）、学校斡旋就職一次合格率80%以上を維持（R1 ; 87%、R2 ; 65.7%、R3 ; 68.8%）
 - ・大阪府における10月末就職内定率比プラス10ポイント以上（R2 ; 大阪府58.5%、本校66% R3 ; 大阪府62%、本校68.6%）
 - ・進学者数における四大進学者の割合25%をめざす。R6年度については25%を維持。（R1 ; 22%、R2 ; 17.8%、R3 ; 15%）
 - ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上をめざす。
R6年度については80%以上を維持。（R1 ; 81%、R2 ; 84%、R3 ; 87%）

3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据え、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
 - ・傾聴の姿勢を大切にしつつ、挨拶、マナー、時間を守ることや身だしなみ、また他人を思いやる気持ち等、「生きる力」を生徒に寄り添いながら育む指導支援をする。
 - ・家庭との連携協力体制をつくり上げるため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - ・教育相談および生徒支援体制を強化し、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ、虐待、ヤングケアラー、貧困等により、学校生活に困難さがある生徒の早期発見と未然防止に努め、関係機関とも連携を図りながら適切な対応につなげる。
 - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、人権と多様性の尊重のために、教職員の専門的な知識の習得と対応力の向上を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進に努める。
 - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホテル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかかわる実践的な行動力の伸長を図る。
 - ・学校行事、学年行事、ボランティアを通じて地域との交流活動等の充実に努める。
 - ・国際交流を推進し、今日のグローバル社会に主体的に関わろうとする意志と行動力の醸成を図る。
- (4) 基本的生活習慣の確立
 - ・生徒が自己の健康管理の重要性を理解し、さらに行動できる力を身につける。
- (5) 清掃・美化活動の実践を通じて、校内における環境美化を推進する。（例）清掃に関わるコンクールの実施、清掃週間。
 - ※・遅刻総数10,000件以下（R1 ; 11,002件、R2 ; 13,038、R3 ; 10,748）、部活動加入者定着率75%以上を維持（R1 ; 73%、R2 ; 79.4%、R3 ; 95.6%）
 - ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上を維持（R1 ; 73%、R2 ; 79%、R3 ; 78%）
 - 「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」80%以上を維持（R1 ; 83%、R2 ; 82%、R3 ; 86%）
 - 「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」80%以上を維持（R1 ; 72%、R2 ; 71%、R3 ; 77%）
 - 「部活動や生徒会活動は活発だ」70%以上を維持（R1 ; 67%、R2 ; 69%、R3 ; 69%）
 - 「校内はきれいな状態である」70%以上を維持（R1 ; 63%、R2 ; 60%、R3 ; 68%）

4 「信頼される学校」・「協働する学校組織」をつくりあげる

- (1) 校内外の研修、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員力の向上を図るとともに、本校教育への信頼につなげる。また、ホームページを充実させるなど外部への情報発信に努める。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
 - ・OJTによる校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務の効率化を推進すると同時に、中核となる教員の育成を図る。

※ ・第一次入学者選抜の志願倍率 1.0倍以上を維持 (R1 : 0.98, R2 : 0.63倍, R3 : 0.69) ・学校自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上を維持 (R1 : 59%, R2 : 76%, R3 : 80%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>【R4学校教育自己診断回答】※年度 (%) (生徒回答) / (三者比較)</p> <p>問2 授業はわかりやすく工夫されている。 R2 (77)R3 (78)R4 (76) /生徒(76)保護者(56)教員(82) ※「オープンクラス」による教員間での授業見学や研究協議の機会が増加し、授業内容のレベルアップにつながっている。継続していく。保護者が授業を見学する機会等についても検討する必要がある。</p> <p>問6 将来の進路や生き方について、学んだり考えたりする機会がある。 R2 (84)R3 (86)R4 (83) /生徒(83)保護者(87)教員(82) ※1年次からのきめ細やかな進路指導が実現しつつある。一部の教員、分掌が進路指導を担うのではなく、学校全体で取り組む必要がある。</p> <p>問8 学校の決まりやルールを守っている。 R2 (92)R3 (91)R4 (95) /生徒(95)保護者(66)教員(9) ※生徒一人ひとりの自覚もあるが、教員はルールを守らせる立場にあり、共通した声掛けやぶれのない指導体制の積み上げが課題である。</p> <p>問11 先生や学校は、いじめにしっかり対応してくれる。 R2 (82)R3 (86)R4 (84) /生徒(84)保護者(82)教員(91) ※いじめ対策チームによる啓発から、いじめに対する教員間での共通理解が深まり、どの学年でも即時対応できるようになった。</p> <p>問12 悩みや相談に応じてくれる先生がいる。 R2 (71)R3 (77)R4 (77) /生徒(77)保護者(84)教員(91) ※生徒からの相談に丁寧に対応できている。気づきと情報共有、教員から生徒へのさらなるアプローチが課題である。</p> <p>問14 クラブ活動や生徒会活動は活発だ。 R2 (69)R3 (70)R4 (62) /生徒(62)保護者(39)教員(3) ※クラブ活動への加入人数は少ないが、加入者自身の満足度は高い。生徒にとって、魅力とやりがいのある部活動づくりを支援していく。</p> <p>問16 校内はきれいな状態である。 R2 (60)R3 (68)R4 (49) /生徒(49)保護者(65)教員(30) ※清掃指導が学年やクラスによって差異が生じている。委員会による清掃活動を開始。教職員・生徒一体となった体制づくりが課題である。</p> <p>問24. 福泉高校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。(R4二者比較)保護者(73) 教員(84) ※些細なことでも家庭との連携を密にすることによって、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行っている。今後も継続していく。</p>	<p>第1回学校運営協議会 令和4年7月7日(木) 場所:本校会議室 (次第) 1 校長挨拶 2 委員長挨拶 3 自己紹介 4 令和4年度学校経営計画 5 今年度の取組み(教務・進路・生活指導・生徒会・授業研究チーム・事務室) 6 その他 Q 数年連続して定員割れとなった府立学校は、閉校になるというのはどうか? A (校長) 統廃合の対象になるということ。このことについても、やれることをやり、学校の存続や必要性について、粘り強く教育庁等に訴えていく。 (事務局) 今年度は数年ぶりに合同説明会も開催される。また、本校においても複数回の学校説明会を企画している。そこで、本校の存在をPRしていきたい。 (意見) 進路(出口)の決定率や生徒の満足度をあげる。そして、それを外部にいかに見せるかということが重要。その他、例えば、ドローンの免許取得など、福泉にしかない何かを打ち出してはどうか。 (意見) 在学中に成人年齢に達する生徒もいる。そんな状況の中、政治に興味関心を持たせ、選挙に行くような生徒を育成することも学校の果たすべき役割であると考え。学校経営計画にもあるように、「素敵(すてき)な社会人」になるためにも、是非お願いしたい。</p> <p>第2回学校運営協議会 令和4年10月28日(金) 場所:本校会議室 1 校長挨拶 2 委員長挨拶 3 令和4年度学校経営計画進捗状況 4 スクールミッション(案)について 5 今年度の取組み 6 その他 40周年式典の報告 7 文化祭見学[スクールミッションについて] (意見) 中学校の内容を復習することを前面に出してはどうか。 (意見) 先生と生徒とのコミュニケーションが活発であるところ等を、具体的に示すと、保護者の方もわかりやすいのではないかと。 (意見) 時代も変化してきている。生徒たちが社会の形成者となるために必要なことを、学校教育の中で教えて欲しい。 (意見) 生徒さんには自分の中に善悪の意識と意見がもてるような人になってほしい。</p> <p>第3回学校運営協議会 令和5年2月23日(水) 場所:本校会議室 1 校長挨拶 2 委員長挨拶 3 令和4年度学校経営計画(評価)、令和5年度学校経営計画 4 今年度の取組みについて 5 その他 (質問事項・提案・意見等) Q 学校美化について、評価が低くなっている。A 廊下や階段はとてもきれいな状態。今年度、保健委員が定期的に掃除をしている。各教室の環境整備については、課題が残る。 (提案) ヤングケアラーについて、近隣施設として何かご協力できればと思う。 Q 来年度、ここに力を入れるというところは何か。 A 学習面では、生徒の分かるよこびを、さらに高めていく。生活指導面については、生徒と向き合い、しっかりと話をしながら育ていく。 (意見) なかなか学校だけで生徒数を増やすのは厳しいのではないかと。何か抜本的な考えが欲しい所である。また、教育庁からの支援も必要かと思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) オープンクラスを核に授業見学を企画・実施しICTの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」とともに3.3以上[3.25] ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%以上[78%]	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」前期3.30後期3.39 3.34(○) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」75%(△) 1人1台端末の導入や、学習指導要領の改訂など現在移行期であるため、昨年度より教員が授業準備に割く時間が増加した。今後は授業の実施改善により生徒にとって、さらにわかりやすい授業を実施する。

府立福泉高等学校

<p style="text-align: center;">2 未来を切り拓く力の育成</p>	<p>(1) キャリア教育の更なる充実</p> <p>(2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み</p>	<p>(1) 上級学校や企業など外部との連携を深め、生徒が進路について自ら考えられる学習の機会を増やし、進路意識の向上を図る。</p> <p>(2) ア. 多様な進路に対応するため、放課後の時間等を活用し、就職指導・進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。 イ. 教育相談委員会等と連携を密にし、進路に不安を感じる生徒の個別指導を行う。</p>	<p>(1) 自己診断（生徒）「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答 80%を維持[87%]</p> <p>(2) ア・イ 進路決定率 100% [94, 5%] 大阪府における10月末就職内定率比プラス10ポイント以上 [大阪府62%本校68.6%] 学校斡旋による就職希望者内定率 100% [100%] 進学者における四大進学者の割合 30% [15.0 %]</p>	<p>(1) 自己診断（生徒）「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答 83% (○)</p> <p>(2) ア・イ 進路決定率 81,6% (△) 大阪府における10月末就職内定率比プラス10ポイント以上 [大阪府77,5%本校84,2%](△) 学校斡旋による就職希望者内定率 100% (○) 進学者における四大進学者の割合 31% (○) 「学校斡旋による就職希望者内定率」「進学者における四大進学者の割合」についてはクリアすることができた。これは、入学時から積み上げてきた進路指導の成果である。一方で、期間までに卒業後の進路を決定し、次へと踏み出すことのできない生徒がいたことも事実である。この点について、入学時より卒業までを見越したキャリア教育の再考及び、積み上げが必要である。</p>
--	---	---	--	---

府立福泉高等学校

<p>3 他者と協働できる力の育成</p>	<p>(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成</p> <p>(2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上</p> <p>(3) 社会とかかわる実践的な行動力の伸長</p> <p>(4) 健康への関心を高める</p> <p>(5) 歯・口腔への関心を高める</p> <p>(6) 健康、環境衛生への関心を高める</p> <p>(7) 事故防止の意識を高め、緊急時に対応する</p>	<p>(1) ア. 生徒の実情に合わせたルールを再考し、生徒一人ひとりに寄り添いながら、あいさつ、マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にした理解と協力の下、粘り強い指導支援を継続して行うとともに、生活指導事案に即応する体制を築く。 イ. 定期的に講習（交通安全講習会や薬物乱用防止講習会等）を行うことにより、生徒の規範意識の醸成につなげる。</p> <p>(2) ア. 教育相談委員会を核に、保健部・生活指導部・教務部が協力体制を強化して SC・SSW 等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。同時に、合理的配慮や個別的教育支援計画等についてまとめた「教育相談の手引き」の活用と内容の更新・改定を行う。 イ. 教員が一丸となって部活動や学校行事等の魅力作りに関わる。WEB ページを充実させ、生徒の頑張っている姿を発信する。</p> <p>(3) ア. 学校行事、学年行事、ボランティア(被災地等)を通じて地域との交流活動を実施する。 イ. 国際交流活動(長期休業中の短期留学、ホームステイ)の呼びかけと実施する。 ウ. 成年年齢の引き下げに伴い、教科・総合的な学習の機会を活用し、選挙等について学ぶ機会を設定する。</p> <p>(4) 呼びかけや面談等を実施し、健康への関心を高め、疾病の早期の発見と治療をめざす。感染症に対しては、正しい情報を示し、予防と対策を啓蒙する。</p> <p>(5) ア. 歯科講話を実施し治療につなげる。また、受診勧奨した生徒には、個別に確認し、受診を促す。 イ. 保健だよりや掲示物を活用し、情報発信に努める。</p> <p>(6) 生徒の健康・環境衛生への意識を高めるため、生徒保健委員会を開催する。内容は校内美化・整備に関する内容と文化祭関係業務。</p> <p>(7) ア. 講習会や避難訓練を実施し、緊急時の救急体制について確認する。 イ. 教科「保健」を活用し、救急法について具体的に学ぶ機会を提供する。 ウ. 交通安全教室を実施し、自転車走行時の安全な行動や、万一、事故に遭遇した際の対応について学ぶ機会とする。</p>	<p>(1) ア. 遅刻総数 10,000 件以内 [10,748 件] イ. 各講習生徒アンケートの肯定的評価 80%以上。 [新規]</p> <p>(2) ア. 自己診断(生徒)の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」[86%]、「いじめに、しっかり対応してくれる」[77%] 80%以上、85%以上 イ. 部活動加入者の定着率 82%以上[95 %] ・HP 閲覧数 3 万件以上 [61,040]</p> <p>(3) ア. ボランティア体験、地域との交流活動への複数回参加[R3:0回] イ. 国際交流活動の複数回実施。[R3:0回] ウ. 学習の機会 年 1 回以上[R3:0回]</p> <p>(4) 健康診断の受検率 95%以上 [97 %]</p> <p>(5) ア. 歯科受診完了報告書の提出 10%。[4%] イ. 保健だより月 1 回の発行を継続する(号外除く)。 [月 1 回発行]</p> <p>(6) 生徒保健委員会前期 2 回、後期 2 回以上実施する。 [前期 2 回後期 2 回] ・年 3 回大掃除を実施。 ・文化祭で「エコ大賞」を企画し、優秀な作品を表彰する。 ・自己診断(生徒)「校内はきれいな状態である」70%以上 [68%]</p> <p>(7) ア. 生徒及び職員の AED を含む救急法講習会を年 1 回実施する。[0 回] ・職員対象にエビペン使用に関する講習会を年 1 回実施。 [1 回] ・避難訓練を年 2 回実施。 [0 回 (HR 学習除く)] イ. 救急法学習機会 [1 回以上] ウ. 交通安全教室及び学習の実施[1 回]</p>	<p>(1) ア. 遅刻総数 11,450 件(△) 生徒数の減少及び、3 学期の積み上げを考えると目標を達成するのは難しい状況。今年度、遅刻指導の取組みについては、柔軟に対応しながら実践しているところだが、数値目標の達成には繋がっていない。生徒を巻き込んだ新たな対応と取組みの必要性がある。 イ. 各講習生徒アンケートの肯定的評価 89.6%(○) HR 等を活用し、生徒のニーズに合わせた題材を用いて、効果的に講習を実施することができた。</p> <p>(2) ア. 自己診断(生徒)の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」77%(△)、「いじめに、しっかり対応してくれる」84%(○) ヤングケアラーについて、アンケートをもとに聞き取りを実施し、継続的に見守る体制作りをした。また、必要に応じ、個々の生徒対応に関する校内ケース会議を開催するようになったのも成果である。 ・虐待関連での外部連携 20 件 ・保護者懇談への同席 19 件、・主治医訪問 3 件 ・他校等との連携 9 件</p> <p>イ. 部活動加入者の定着率 81.4%(○) ・HP 閲覧数(令和 4 年度末時点 157,800 件、令和 4 年度アクセス数 10,657 件)(△) 部活動加入者の定着率は、コロナ禍で活動が制限される中、高い水準を保つことができた。 HP 閲覧数については、ほぼ目標を到達する予定。更なる閲覧率アップに向けた方策が必要である。</p> <p>(3) ア. ボランティア、地域交流活動参加 0 回(△) イ. 国際交流活動の複数回実施。1 回(△) ウ. 学習の機会 1 回(○) 7 月にフランスから短期留学生を受け入れた。また、HR で「少年法」「契約」「選挙」等を学習。</p> <p>(4) 健康診断の受検率 87.4%(△) 例年、心臓 1 次、結核検診は春休み登校日に実施していたが、今年度は 4 月 22 日の実施となった。結果、欠席生徒が 35 人となり減少した。(春休みの登校日に実施した身体計測の欠席生徒の数は 2 人) 新入生の出席、欠席、遅刻が多く、全体として受診率が低くなった。 ※次年度以降の取組みとして、例年通り、春休みの登校日に実施できるよう、関連団体に要望し計画するとともに、検診の受診を促すように、事前連絡、指導を行う。ただ、長期欠席者を除けば、最終的には 90%近い受診率だった。</p> <p>(5) ア. 歯科受診完了報告書の提出 3.8%(△) 歯科検診については、検診終了後その場で受診勧告を行ったが、大きな効果はなかった。ただ、検診の聞き取りの中で、報告書を提出せず、受診している生徒も数多くみられた。 ※次年度は、単に数字だけでなく、前年と比較して、注意を要する生徒には個別に指導を行いたい。 イ. 保健だより月 1 回発行(号外除く)。(○)</p> <p>(6) 生徒保健委員会前期 5 回、後期 4 回実施(○) ・大掃除、年 3 回実施(○) ・文化祭で「エコ大賞」を企画し、優秀な作品を表彰 ・自己診断(生徒)「校内はきれいな状態である」49%(△) 委員会生徒による清掃活動や大掃除を実施することはできたが、日常的な取組みや意識変容にはつながらなかった。日頃から意識づけをする取組みを再考する。</p> <p>(7) ア. 生徒及び職員の AED を含む救急法講習会を年 1 回実施(○) ・職員対象エビペンに関する講習会を年 1 回実施(○) ・避難訓練を年 2 回実施(○) イ. 救急法学習機会 1 回(○) ウ. 交通安全教室及び学習の実施 2 回(○) 講習会・訓練・学習の機会については、周到に準備しながら時間を確保することができた。</p>
---------------------------	---	---	--	--

府立福泉高等学校

<p>4 信頼される学校、 進化する学校組織の 構築</p>	<p>(1) 教職員力と本校の信頼度アップ</p> <p>(2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進</p> <p>(3) 校務運営を継承発展させる教員の育成</p>	<p>(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・関係団体・地域等への情報提供・収集の迅速化および連携の強化</p> <p>ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認</p> <p>エ. 連絡票を活用した職員朝礼の実施</p> <p>(2) 教育センターにおける研修や OJT を含む校内研修等により若手教員の継続的な育成支援を行なうとともに学校運営への積極的な参画を図る。</p> <p>(3) ア. 各教職員に一月ごとに勤務時間を示しながら業務内容の改善や新たな体制づくり、資料の整備等、校内「働き方改革研究チーム」と連携しながら「働き方改革」を進める。 イ. 新規の企画を検討する「β会議」を開催し、(進路) (広報) 等、分掌・学年の枠をこえた取組みを実施する。</p>	<p>(1) ア. 各学期 1 回以上開催 アイ. 中学校・高等学校等と連携した研修の複数回開催</p> <p>ウ. 定期的なマニュアル等の確認や学期に 1 回以上の研修を実施</p> <p>エ. 連絡票の活用 (授業日)</p> <p>(2) ・各学期 1 回以上開催 ・複数分掌による他校視察 2 校以上</p> <p>(3) アイ. β 会議年 3 回以上開催 「β 会議」において、学校説明会等の広報について協議するとともに「福泉ロードマップ」を作成する。</p>	<p>(1) ア. 各学期 1 回開催 (○) アイ. 他校と連携した研修 0 回 (△)</p> <p>ウ. 定期的なマニュアル等の確認 (○)</p> <p>エ. 連絡票の活用 (授業日) (○) 授業向上 (改善) チーム「オーブクラス」を軸としてテーマ設定の下、授業見学→研究協議をおこなうことができた。来年度以降も継続していく。</p> <p>(2) ・各学期 2 回以上開催 (○) ・複数分掌による他校視察 0 校 (△) 初任者等に対する校内研修や外部講師を招いた研修を実施することができた。 他校研修については、相手校とのマッチングや校内業務多忙のため計画・検討段階に留まった。</p> <p>(3) ・「働き方改革」(△) ・β 会議→学年主任会議 (○) ・「福泉ロードマップ」(△) 少しずつではあるが、校内「働き方改革研究チーム」を中心として、話し合いを進め、業務に関していくつかの工夫・改善がなされている。 学年主任会議 (週 1 回) 実施し、学年間の行事の調整や新たな取組み、生徒情報の共有等をおこなった。 「福泉ロードマップ」の作成には至らなかった。</p>
--	---	--	--	--